エコタウン実現プロジェクト
- エココミュニティーの形成を目指して -

春・秋連結学期 | 京田辺校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

近年、環境破壊およびエネルギー資源の枯渇が問題視されており、資源循環型・持続可能型エネルギーを利用したまちづくりが注目されています。

本科目では、このような問題に対応可能な、環境保全と文明社会の調和がとれたエコタウンの実現を目指し、活動を行いました。今年度は、実際に同志社大学京田辺キャンパスに近接する「同志社山手」地区において、「地域コミュニティーの形成」「交通体系」「ヘルスケア」の3つをエコタウン実現のためのテーマとして掲げ提案をさせて頂きました。

エココミュニティー形成の実現に向けた提案を進めるために、地域住民の方々との積極的な交流を図り、その交流において得られた住民の方々のご意見を伺いながら、エコタウン実現に向けた話し合いを進めました。また、昨年度に引き続き、自動車に代わるクリーンな交通体系として、電動アシスト自転車を用いたサイクルシェアリングの実現に向けた取り組みを行いました。さらに、今年度からの新しい取り組みとして、住民の方々の健康活動と地域交流を促進するため「畑シェアリング」を提案しました。

annual schedule

2013年	4月	けいはんな地域の概要把握
	5月	同志社山手地区の現地視察
	6月	「さくらの丘公園オープニングイベント」準備
	7月	「さくらの丘公園オープニングイベント」参加 中間報告会
	9月	「同志社山手秋祭」準備
	10月	「同志社山手秋祭」実施 畑開園予定地の現地視察
	11月	「映画上映会」準備
	12月	「同志社大学内における自転車シェアリングの意識調査」実施 「映画上映会」実施
2014年	1月	成果報告会 畑開園予定地の工事着工（予定） 京都府様・京田辺市様との自転車シェアリングに関する協議（予定）

2. 成果達成度

the achievement degree

1　エコタウンの実現に向けた提案

今年度の活動として、まず同志社山手地区の視察を行いました。次に、エコタウン実現に向けて重要な「地域コミュニティー形成」「交通体系」「ヘルスケア」の3テーマを設定し、それぞれについて班を分け、プロジェクトの提案とその実現に向けた活動を行いました。以下に各テーマにおける内容を記します。

1.1　地域コミュニティーの形成

地域住民の方々による自発的なエココミュニティーの形成を目指して、住民の方々が公民館や公園などに集まって行われるイベントを企画・提案しました。公民館を利用した映画上映などのイベントを行い住民の方々が一ヶ所に集まることにより、各家庭におけるエネルギー消費量の削減が可能となり、街全体でのエネルギー消費量の削減にも繋がります。また、エコに関連したイベントを実施することで、住民の方々のエコ意識の向上を図りました。今年度の活動としては、7月に開園した「同志社山手さくらの丘公園」のオープニングイベントに参画し、家庭における省エネ対策として有効なグリーンカーテンとなるゴーヤの苗を配布しました。また、秋に行われたイベントでは、住民の皆様が育てて下さったグリーンカーテンの写真を展示し、グリーンカーテンの取組の紹介を行いました。さらに、冬にはエコに関連した映画の上映会を開催し、見て下さった方々にエコへの関心を持って頂くことができました。

1.2　交通体系

同志社山手・三山木地区は鉄道からのアクセスが悪く、移動が不便であり、全国平均と比較して自家用車の利用頻度が高くなっています。そこで、自動車に替わるクリーンな交通手段として、三山木駅、同志社大学および同志社山手の3ヶ所を中心とするサイクルシェアリングを提案しました。今年度は、バスとの競合や地形の高低差など現状の問題点を把握し、解決方法を模索しました。また、自転車の貸出・返却ポートの設置場所を検討するため、同志社大学京田辺キャンパスに通う学生を対象としてアンケートを実施しました。今後は、このアンケート結果も含めて、京都府様・京田辺市様と協議を行うなど、提案の実現に向けた活動を行う予定です。

1.3　ヘルスケア

地域住民の方々の健康活動と地域交流を促進するため、畑シェアリングを提案しました。これは、地域住民の方々が共同で畑作業を行うことによりコミュニティー形成につながるだけでなく、適度な運動と自分達で野菜を作ることで地域住民の方々のエコ意識と健康意識を向上させることを目指したプロジェクトとなっています。春学期は、提案を実現するため、企業による貸し農園を見学させて頂き、同志社山手地域に畑を開園する上での土地や法的な問題を把握しました。また、秋学期は、プロジェクト実現に向けて、住民の方々へアンケートを実施し、畑開園予定地を検討した上で、提案の実現に向けた問題の解決策を模索しました。今後は、畑開園予定地の工事が着工し、エコな畑実現に向けたさらなる提案を行う予定です。

3. プロジェクトを通じて

through a project

私たちはこのプロジェクト科目を通じて、実際に現場を目で見て、住民の方々の声を聞き、その上でよく話し合い提案活動を行いました。提案した内容が全て受け入れて頂けない場合もあり、初めから考え直すこともありました。しかし、イベントおよび会議に参加した際に頂いた様々な方々の協力をもとに、最終的には実現可能な提案を進めることができました。自分達の提案を実現させる難しさも感じましたが、提案が実現する喜びも実感することが出来ました。この経験は、社会に出てからも役立つと確信しています。

[編集後記]

講義形式の座学とは違って、自分達が主体となって進めていく授業は新鮮なものでした。しかし、自分達の意見を提案しても、理想と現実のギャップに悩まされることがありました。また、何か新しいことを提案することは、多くの方々のご協力が必要であり、それだけ責任が大きいということも実感しました。しかし、本授業では、企業や地域住民の方々の多大なご協力のおかげで、プロジェクトを円滑に進めることができました。今後、実際に社会に出た際は、本授業と比べてより大きな困難が待っていると認識していますが、この一年間の活動を通じて感じ、学んだことは必ず生きてくると思います。

[プロジェクトメンバー]

森地 亮太（経済2） 高倉 純平（文化情報3） 竹田 晋弥（理工4） 中山 亮（理工4） 浅川 野人（理工4） 花崎 稔（理工4）
平石 祐介（理工4） 川島 龍一郎（理工4） 宮田 哲次（理工4） 小川 裕己（理工4） 吉田 裕平（理工4） 福地 翔一（理工4）
稲垣 良介（理工4） 向山 智之（理工4） 織田 のどか（理工4） 北口 純輝（TA）